

会 議 録

会 議 名	令和元年度第1回野田市生物多様性のだ戦略市民会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	(1) 生物多様性のだ戦略の策定経緯 (公開) (2) 現戦略の評価 (現状と課題) について (公開) (3) 見直しの方向性について (公開)
日 時	令和元年11月26日 (火) 午前10時から午後0時30分まで
場 所	市役所低層棟4階委員会室
出席委員氏名	会 長 長谷川 雅美 副会長 茂木 康男 委 員 朽津 和幸、田中 利勝、新保 國弘、田中 勝美、 柄澤 保彦、土屋 守、黒川 茂、染谷 幸夫、 香西 陽一郎、古矢 浩祥、石山 由美子
事 務 局	今村 繁 (副市長) 山下 敏也 (自然経済推進部長) 宇田川 克己 (自然経済推進部次長兼商工観光課長) 中村 正則 (みどりと水のまちづくり課長) 勝田 等 (みどりと水のまちづくり課長補佐) 茂木 大介 (みどりと水のまちづくり課自然保護係長) 遠山 千夏 (みどりと水のまちづくり課自然保護係主査) 久保木 史子 (みどりと水のまちづくり課自然保護係主任主事) 尾原 諒 (みどりと水のまちづくり課自然保護係主事補) 寺門 洋行 (総務課長補佐)
欠席委員氏名	委 員 金丸 治子、鈴木 哲雄
傍 聴 者	無し
議 事	令和元年度第1回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の会議結果 (概要) は次のとおりである。

1 開会

《事務局：中村課長》

令和元年度第1回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の開会を宣言

野田市生物多様性のだ戦略市民会議条例第6条第1項の規定により、会長が招集し議長となると規定されているが、今回が初回となるため、市長が招集したことを報告

生物多様性のだ戦略市民会議条例の規定第6条第2項の規定により、委員15名のうち、半数以上の13名が出席しているため、会議が成立していることを報告

野田市審議会等の会議に関する要項にて、審議会は原則公開とされていること、また審議事項については非公開とするべき事項は含まれていないことから、今回の会議は公開とすることを報告。また市ホームページにおいて公開の会議であることを市民に周知していることを報告

今後の会議では、希少種などのデータを取り扱うことも想定されることから、そのような議題の際は、委員の皆さんに公開するべきか、非公開とするべきかを諮りながら、進める旨を説明

2 市長挨拶

3 設立趣旨について

《事務局：山下部長》

野田市生物多様性のだ戦略市民会議条例が発足に至った経緯について説明

4 役員の選出について

《仮議長：鈴木市長》

それでは、会長が選出されるまで、仮議長を務めさせていただく。会長の選出については、条例第5条により委員の互選により選任となっている。選出方法について、御意見等はあるか。

《委員》

指名推薦でどうか。

《仮議長：鈴木市長》

指名推薦という御発言が出たが、意見等はあるか。

(異議無しの声)

《仮議長：鈴木市長》

それでは、会長の推薦をお願いします。

《委員》

長谷川委員を推薦する。生物多様性の戦略を作成したときに、その検討委員会で座長をやっていたが、また豊富な知識をお持ちであるので適任と思われる。

《仮議長：鈴木市長》

長谷川委員を推薦いただいたが、御意見等はあるか。ないようなのでお諮りする。長谷川委員に会長をお願いしますということによろしいか。

(異議無しの声多数)

《仮議長：鈴木市長》

異議無しということで、長谷川委員に会長をお願いします。条例の規定により、会長が議長を務めることとなっているため、議長を交代する。

《事務局：中村課長》

鈴木市長は他の公務があるため、退席することを報告

朽津委員は所用のため、退席することを報告

《会長》

会長に選出されたので、一言御挨拶を申し上げたいと思う。

本日はお忙しい中、お集まりいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。この市民会議は野田市の自然再生、生物多様性の取組を更に広げて、自然と共生する地域づくりを進めていくために、大変重要な会議であると認識している。議題について、十分御審議いただきま

すようお願い申し上げます。

《会長》

副会長の選出ですが、会長の選出方法と同じ方法をとらせていただいてもよろしいか。

(異議無しの声)

《会長》

それでは、どなたか副会長の推薦をお願いします。

《委員》

茂木委員を推薦する。委員の方々は、豊富な知識や経験を持っているため、指名も難しいが、副会長については、会長と異なる選出区分ということ考慮し、自然保護団体から推薦をした。茂木委員は、長谷川会長と同じく、生物多様性の戦略を作成していただいたということもあり、経験豊富なため適任と思われる。

《会長》

茂木委員を推薦いただいたが、御意見等はあるか。ないようなのでお諮りする。茂木委員に副会長をお願いしますということによろしいか。

(異議無しの声多数)

《会長》

それでは茂木委員に副会長をお願いします。副会長、御挨拶をお願いします。

《副会長》

私は中学時代から、農業に携わっており、そういった観点からの自然に対する考えがあり、現在はみどりのふるさとづくり実行委員会の会長を務めさせていただいている。今回は副会長に御推薦いただいたので、よろしくをお願いします。

5 議題

(1) 生物多様性のだ戦略の策定経緯（資料1）

《事務局：茂木係長》

資料1（資料の1～5ページ）を説明。

《会長》

私は生物多様性のだ戦略を作成する際には、座長を務めさせていただいた。この戦略により、野田市が生物多様性を進める方向性を内外に示すことができたことに加え、今回の会議に至ることができた。生物多様性は日本にとどまらず、条約等により国際社会からも求められていることから、まずは国の国家戦略が策定され、それが地域に押し広がっていく流れの中で作成された戦略である。先ほどの説明により、野田市の取組が、近隣市町村や首都圏の自然環境の保全に大きな役割を与えていることを改めて認識した。それではただ今の事務局の説明に対して、何か御意見等はあるか。

《委員》

事務局の説明の中であった、庁内フォローアップ調査について、詳細をお聴きしたい。

《事務局：宇田川次長》

戦略の中で位置付けているフォローアップ調査の内容としては、担当課ごとに施策と取組状況についての照会を行い、みどりと水のまちづくり課で取りまとめを行うものになります。現在までに一度のみ実施されたものと把握している。

《事務局：今村副市長》

条例により野田市生物多様性のだ戦略市民会議の所掌事務として「戦略の実施状況について意見を述べること」という一文を入れております。フォローアップ調査も含めた今後の戦略の進行管理については、委員の方々にも意見を頂きながら、推進を図りたいと考えている。

(2) 現戦略の評価（現状と課題）について（資料2）

《事務局：茂木係長》

資料2（資料の6～8ページ）を説明

《事務局：宇田川次長》

資料について補足説明をさせていただきたいと思う。資料の7ページの(1)環境にやさしい農業の推進の項目に「需要縮小の課題」とあるが、実際のところは供給が多く、需要と供給のバランスが非常に悪い状況と認識していただければと思う。

《会長》

事務局からの補足の説明もあったが、何か御意見等はあるか。

《委員》

冬水田んぼについて、効果は実証できていないとあるが、私の団体の活動で冬水田んぼに触れる機会があったが、乾田と比較し、生物種が多い印象を受けた。

《事務局：今村副市長》

冬水田んぼについてだが、市として一番の課題だと思っていることは維持管理が難しい点である。冬水田んぼは生物多様性を確保する上で必要なことだとは認識しているが、現在は維持することで精一杯といった状況である。

《事務局：山下部長》

市内数か所で実施させていただいている冬水田んぼだが、周辺の生物に関しては、市でも増えてきているとの実感を得ているところである。しかし、先ほど副市長が申したが、維持費が掛かり、現在は大きな面積では実施できていない。また現在試験的に運用する中で協力している農家が冬水田んぼのメリットを実感できていないのが現状である。今後も引き続き冬水田んぼを実施し、効果の検証等に努めたいと考えている。

《副会長》

冬水田んぼについては当初から、農家の人に受け入れられるかどうか少し疑問があった。そもそも、ひと昔前の田んぼには一年中水が張られていたが、農業を推進する観点から乾田が進められたという経緯がある。農家の人からすると冬水田んぼは自分たちがやってきたことと相反する部分があるかもしれない。ただ生物多様性という考え方からすると冬水田んぼは有効なものだと思う。もっとも生物多様性という言葉自体が難しいものであり、それを市

民の共通認識にしていく必要があると思う。

《委員》

生物多様性の観点から見て、野田市の田んぼの一番の問題点は転作することだと思う。米の収穫が終わった後に、麦や大豆を育てたりする。農業で生活している農家の立場もあると思うが、水田を好む生物にも乾田を好む生物にとっても生活しづらい環境だと思う。

先ほど少しお話のあった冬水田んぼだが、市全域で行う必要はないと思う。自然な範囲で行えばいい。水田の生態系だけでなく、乾田にも生態系というものもある。

また、野田の水路もいろいろ問題があるが、子供が入って遊べるような小川があるビオトープが作れば、今後の野田市の生物多様性施策に理解を示す市民が増えるのではないかと考えている。

最後にはなるが、野田市の生物多様性施策を進める上で欠かせないものは農業者の理解だと思う。黒酢散布は農家の方にも広く知れ渡っていると思うが、客観的なデータから見てどれくらいの効果があるのか農家の方に示していく必要があるのではないかと。

《委員》

野田市の生物多様性の戦略の進行管理についてだが、一貫した客観的な指標を用いて評価を行う必要があるのではないかと。平成27年作成の生物多様性の戦略48ページには市内15か所のモニタリング調査についての記載がある。市全体を漠然と見るのではなく、範囲を決めた拠点ごとに調査を行った上で評価を行う。大きな自然、小さな自然、真ん中の自然等に分けて拠点を作り評価していくというのはどうか。また専門家の力を借り、戦略の効果に関して客観的に評価できる監査制度が必要だと思う。そして拠点ごとにPDCAを行い、生物の多様性を確保できればいいと思う。

《委員》

野田市の生物多様性のベースになる部分が非常に弱いと思う。平成27年に野田市野生動植物の保護に関する条例というものが制定され、千葉県レッドデータブックに記載されている動植物は採集禁止とされたが、野田市にどんな生き物がどれくらい生息しているのか、把握できていない。千葉県という広い区域内のレッドデータブックでは、野田市の実情にあっていない部分がある。生物多様性の確保にはそもそも基礎的なデータの集積が不可欠である。野田市の生物多様性についてを考えなくてはならない。

《委員》

先ほど委員からお話がありましたが、生物の生息状況について、まずは正確な現状を知ることが生物多様性戦略の出発点だと思う。特に生物が生息する環境の土台となっているものは植物だと思う。生物は多かれ少なかれ、植物に依存して生きている。まず最初に行うべきは生息植物の調査ではないか。

《会長》

委員の皆様から様々な意見が出たが、事務局としては今後どのように進めていく予定か伺いたい。

《事務局：宇田川次長》

委員の皆様から頂いた様々な意見を踏まえて、施策の見直しの方向性を含め検討していく。

《事務局：今村副市長》

現計画を修正するのではなく、先ほど頂いた意見を参考にしつつ、前例にとらわれない新しい計画をつくる方向性で進めていきたいと考えている。令和2年度で計画は終わるが、しっかりと調査を行い、今後は新しい計画にのっとった戦略を行うことも視野に入れている。

《副会長》

私が幼少の頃と比較し、野田に生息している生物は大きく変化しているように感じる。また生活環境も大きく変化している。生物多様性という言葉があるが、世界規模の生物多様性、日本規模の生物多様性、そして野田市規模の生物多様性など、視点によって見えてくるものは全く変わっていくと思う。まずは野田市の現状をよく踏まえて、野田市の生物多様性の意味をはっきりさせておかななくてはならないと思う。

《委員》

環境は守っていかないとあっという間に劣化してしまう。国道16号付近の利根運河の景観が大開発しているようでかなり変化している。環境が変化しているという意識もないうちに環境が変わってしまう。現在の野田市の環境についてしっかりと把握しておく必要がある

る。

また環境と合わせて、現在の野田市にどんな生物がどれくらい生息しているかをしっかり調査する必要があると思う。野田市の環境の保全と生物多様性の維持を同時並行的に進め、戦略の進展とともに再度、環境と生物の現状を調査して評価するような方法が良いと思う。

《会長》

生物のデータを蓄積することによって、今後の生物の動きに対する予測力もついてくると思う。データを収集する方法も様々なものがあるため、全国レベルの先進的な調査をされている方に参加してもらい、地域の具体的な生物データの収集ができれば良いと思う。

「昆虫はすごい」という本を執筆した丸山宗利という方は、学生の頃に佐倉市の昆虫調査に参加したことが、後の研究をする際の良い経験になったと著書で記している。野田市の生物調査では、地域の方々にも参加していただき、高齢の方から子供たちまで幅広い世代の交流を行うとともに、次世代の生物研究者となる可能性のある子供たちの体験の場になれば良いと思う。

(3) 見直しの方向性について (資料3)

《事務局：茂木係長》

資料3 (資料9～10ページ)を説明

《委員》

環境調査を行う場合は時間に余裕をもって行った方がいいと思う。特に鳥類は調査時間を十分とれないと正確な情報をつかむことはできない。また、調査を行う場所は良くも悪くも今後環境の変化が起こる可能性のある場所を選定した方がいいと思う。前回の戦略作成時の調査場所に関しては、江川地区や清水公園、三ツ堀里山自然園等、環境が守られている保全地域のような場所は外した。

《委員》

期間内に野田市の生物多様性に関する正確な情報をどのようにして多く蓄積していくかをよく考えてもらいたい。環境調査はコンサルタントに依頼するそうだが、野生生物を調べている市民団体も日頃から調査を行っており、そういった団体とコンサルタントが力を合わせて調査を行う体制が望ましいように思う。

《委員》

野田市の野生動植物の保護に関する条例では、野生生物の捕獲等をしてはならないとなっているが、野田市に局所的に残っている希少な植物などを緊急的に採取し、繁殖させた後に自然に戻すようなことは可能か。

《事務局：宇田川次長》

市の条例は野田市に生息している在来種を残すために、営利や鑑賞等の私的な目的による採取を規制している。環境調査等の公益性のあるものについては、事前に目的や内容等を申出いただければ、条例に抵触することはない。

《委員》

戦略の作成に当たっては、環境省や県が作成しているレッドデータブックを利用するのか、それとも環境調査に基づいて野田市のレッドデータブックを作っていくのか。後者の場合は、国や県では絶滅のおそれがないが、野田市に生息する個体群は絶滅の恐れがある、といった視点で生物多様性を考えることができる。

《会長》

来年度から実施予定の野田市の生物調査についてだが、調査のデザインについては調査する前によく検討しておいた方が良いと思われる。データが集まってからどうしようかと考えるよりも、最初から調査の趣旨や方向性をはっきりさせた方が良い。

また、調査の過程で作成した標本等の保管や管理についても、当初から博物館等との連携も視野に入れた体制を作っていく必要があると思う。

自然は刻一刻と変化している。縮小する一方の自然を食い止めるためにも対策を考えていく必要があると思う。

《副会長》

自然や生物多様性は都市生活では余り関係のない問題だと思う。豊かな自然の恩恵を受けている山林や畑、田んぼ等で農林水産業に関わる方々から始まっていかなければならないものだと思う。しかし、核家族化が進み、農業関係者の多くが、土地、田んぼ、山林を売らないといけない状況に追い込まれている。こういった状況では、自然の保全や生物多様性の確

保のベースとなる部分がなくなってしまっていると思う。市町村のみで解決できる問題ではないと思うが、県や国に働きかけたり、行政の方策として何かできることがないか検討していく必要があるのではないかとも思っている。

《委員》

生物調査を行った後の話になるが、内容を担保するもの、植物だったら標本のようなものの扱いはどうするか。自分は生物調査を行う際に作成した標本は、千葉県博物館に収めている。標本はかつて生き物がいたという確かな証拠になる。市の生物調査についても、標本作製したり、その保管場所について検討しておく必要があるのではないか。

《会長》

基礎調査として、いつどこに何が生息しているのかを調べるとともに、採取した生物の標本を残す必要があると思う。調査に当たっては昆虫や植物の愛好家に協力を得たり、博物館の公的な活動の一環として支援してもらえよう交渉することも考えていかなければならないと思う。野田市は関東エコロジカルネットワークの中核を担っていることもあり、市から関東、関東から全国へと広がっていくような活動を目指していくべきだと思う。

活発に議論していただいたが、今回の会議の感想や今後の活動に期待することなどがある方はお願いしたい。

《委員》

福田地区にある福田第一小学校と福田第二小学校では、江川地区で毎年田植や生き物観察などの学習をさせていただいている。しかし今年度は、生き物観察を行う予定だった場所付近にカミツキガメがいるということで中止となった。外来の生物が野田まで入ってきているということそのとき実感した。福田第一小学校の子供たちは里山観察会や農業体験、市のザリガニ釣りなどを通じて様々な生物に興味を持っている。子供たちが生物と接することができる環境を残していけたらいいと思っている。

《委員》

福田地区の小学校が自然と触れ合う基礎の部分構築しているため、中学校でもみどり水のまちづくり課や柄澤先生に来ていただいて、年4回フィールドワークを行い、自然を観察している。福田地区が自然への興味関心が高いのは、子供たちが自然と接する機会があるこ

とに加え、地域の方々もそういった生き物と共存できる環境に関心があるからだと思う。

また校長会等に出席した際、他県や他市の方から、野田のコウノトリが話題に挙げられることがある。野田市のこれまでのコウノトリに関する取組が広く知れ渡っているということだと思う。

《委員》

私は今年、環境部という部署に異動になった。それまでは長年、製造に携わらせてもらっていた。数百年間キッカーマンが野田の地で仕事をさせていただいているのは、豊かな自然環境や水運などの自然の中で生きる知恵があったからかもしれない。

なかなか工場という立場から生物多様性に関わっていくのは難しいが、法律が定める環境の基準をクリアするだけでなく、法律以上にクリーンな水質の排水や大気の排出を目指していきたいと思っている。

《委員》

組合員の多くは生物多様性の根幹である山林や農地を所有している。しかし、後継者不足等多くの問題を抱えており、JAにも相談が寄せられている。野田市の生物多様性に関する啓発を行う中で、里山や農地を残していけたらいいと思っている。

《委員》

今回は観光の関係で参加させてもらった。自然のすばらしさやその保全等、様々なテーマについて議論をしていただいた。その中で少し話に上がったが、やはり後継者不足は、農業のみならず、様々な団体も感じていることであり、一朝一夕にできるものでもなく、個人でできるものでもないため、重要なテーマだと思う。また地域によって、自然や市の施策に関する意識に差があるような話も上がっていたので、今後教育や啓発等の方法を検討する必要があると思う。

《会長》

改めて様々な立場の人から感想を頂いたが、市の全体の自然環境の保全によって、多くの立場のある人が恩恵を受けられるように今後の計画を定め、実効性のあるものにしていければ良いと思う。農業や野田市の今後の魅力に関わり、人口や地域社会の存続の問題でもあることから、今後も皆様の御協力をお願いしたい。

《副会長》

今後も会議を重ねながら、お集まりの委員の皆様の自然に対する基礎的な考え方をもう少し詰めていきたいと思っている。既に今後の会議の予定等は決まっていると思うが、なるべく多くの会議を行いたい。

《事務局：中村課長》

先ほど茂木副会長からお話があったが、今後の会議の回数についても今後検討していきたいと考えている。来年度3回程度というのは、環境調査を行う上で、その都度会議を行った場合の目安ですので、必要に応じて回数を増やしていきたいと思っている。

今後行う環境調査についてだが、外部機関からみた中立的な野田市の状況についての調査を行うため、専門機関のコンサルタントに依頼したいと考えておりますが、何か御意見等はあるか。

(異議無しの声)

《事務局：中村課長》

それでは次回の会議までに専門機関のコンサルタントに依頼できるよう進めていく。

《事務局：今村副市長》

今までみどりのふるさと基金を使用していたため、市の税金は使用せずに、コウノトリの飼育等を行ってきた。しかし、みどりのふるさと基金は少なくなっており、来年度以降の運用を考えなくてはならなくなっている。コウノトリの飼育は続けていきたいと思っているが、市の予算の投入は難しいかもしれない。新しい財源の確保等、今後審議をいただければと思っている。

《会長》

以上で本日の議題は全て終了となる。本日の委員の方々の意見を整理して、事務局は今後の準備を進めていただくようお願いする。次に会議次第6にある「その他」になるが、事務局から何かあるか。

《事務局：中村課長》

会議録等の公開に関して、総務課から発言したい旨の申出がありましたので、審議をお願いしたい。

《会長》

総務課からの申出を許可して良いか。

(異議無しの声)

《会長》

では、お願いします。

《総務課：寺門補佐》

会議録の作成について説明

《会長》

会議録は概要版のみの作成とすることに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成多数)

《会長》

会議録は概要版を作成することに決定する。

《総務課：寺門補佐》

会議録のホームページ掲載について説明

《会長》

会議録のホームページ掲載に賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成多数)

《会長》

会議録をホームページに掲載することを決定する。

《総務課：寺門補佐》

会議資料のホームページ掲載について説明

《会長》

会議資料、諮問書及び答申書のホームページ掲載に賛成の方は挙手をお願いする。

(賛成多数)

《会長》

会議資料、諮問書及び答申書をホームページに掲載することを決定する。

《総務課：寺門補佐》

委員名簿のホームページ掲載について説明

《会長》

公表用の委員名簿を作成し、ホームページに掲載することに賛成の方は挙手をお願いする。

(賛成多数)

《会長》

公表用の委員名簿をホームページに掲載することを決定する。

《総務課：寺門補佐》

委員名簿の形式案について説明

《会長》

名簿に掲載する項目として、氏名、任期、選出区分に加えて、所属団体や職も記載する案

の形式での公表に賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成多数)

《会長》

では、案の形式で掲載することとする。

《総務課：寺門補佐》

御判断をお願いしたいことは以上である。

《会長》

最後に事務局から事務連絡等ございましたらお願いします。

《事務局：中村課長》

委員の皆様には慎重な御審議をいただいたことをお礼申し上げます。

次回、令和元年度第2回の会議開催については、令和2年2月下旬の開催を予定している。次回は公募委員も参加し、諮問をする予定となっている。具体的な日程については、決まり次第、皆様に通知させていただく。

《会長》

以上をもって、令和元年度第1回野田市生物多様性のだ戦略市民会議を閉会とする。